

B 121 成人女子の年齢による体型変化の一考察
武庫川女大家政 林 泰子 ○志茂山尚江

目的 体型に関する研究は従来より種々行われているが、中高年女性を対象としたものは充分ではない。特に女性は中高年になると概して肥満の傾向となり易く、最近の若い女性にみられるような比較的バランスのとれた状態と比較すると、衣服設計においても問題が多い。そこで、今回、肥満タイプの中高年女性と若い女性の人体計測値より年齢に伴って変化する形態について比較考察した。

方法 被検者は中高年女性100名と若い女性140名で、マルテン計測法により得た数値を用いた。また、中高年女性は外見上、肥満体型（Rohrer示数1.5以上）と見受けられる人を選び選んだ。計測項目は衣服設計及び体型の変化の把握に重要と思われる項目について、長径13項目，周径20項目，幅径7項目，厚径5項目，その他3項目の計48項目である。一方、現在は既製服の利用率が非常に高いが、その利用者達が既製服に対してどの程度に満足しているかを7服種についてアンケート調査した。

結果 若い女性と中高年女性を比較すると、加齢と共に胸部，腹部に於ける周径，厚径の増加が目立ち、胸くびれ型から紡錘形となり、上半身が前屈して姿勢が悪くなる傾向がみられた。また、既製服に対しては、若い女性はスカート，スラックスなどの腰回り，大腿周，中高年女性は衿ぐり，袖ぐり，背幅が特に不適合と答えており、年代を問わず難点があると答えた部位は袖丈と着丈であった。